

会報

国鉄闘争全国運動

国鉄分割・民営化反対！ 1047名解雇撤回！

第42号
2013年11月15日

国鉄分割・民営化に反対し 1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局
千葉市中央区要町2-8 DC会館内
TEL 043-222-7207
nationwidemovement@yahoo.co.jp

11・3日比谷野音に5600人が結集

解雇撤回・最高裁で勝利を 改憲に突き進む安倍倒せ



関西生コン支部・港合同・動労千葉と国鉄闘争全国運動の呼びかけで日比谷野外音楽堂で11月3日、全国労働者総決起集会が開催されました。職場に闘う労働組合の呼びかけにこたえ全国から5600人が結集しました。解雇撤回・JR復帰の最高裁署名の訴えを中心に発言を紹介します。

10万筆署名の成功を！

下山房雄(九州大学名誉教授)

1987年国鉄民営化の際の千葉動労組合員・高石さんら不当解雇に対する裁判闘争は、最高裁で争われることになりました。東京高裁・難波法廷へのわれわれの解雇撤回・JR復帰の要求が認められなかったため、当然に同じ解雇撤回・JR復帰の要求を継続して最高裁にぶつけるわけです。この闘争勝利のための10万筆署名運動を成功させるべく、私はこの壇上に立ちました。



われわれの原告に対して、最高裁はどういう裁判をするでしょうか。最もありそうなのは、難波判決を維持してわれわれの

分割・民営化を問い直す

横田厚(元国労釧路闘争団)

国鉄「分割・民営」化に反対してきた最大の理由は、国鉄が民営会社になれば利益の追求が第一となり、安全問題は反古にされるからです。

鉄道事故というのは、合理化が加速、拡大されれば、まず列車そのものの故障や事故、次に信号やATSなどの付帯設備、それから線路にあらわれると言われています。逆を言うと、線路は保守の手抜きをして

も直ちに事故にはつながらないということなんです。これをいかに長年放置され続けてきたわけです。マイナス20度にもなる北海道では、線路の傷みの激しいことは周知の事実ですが、利益の追求を第一とすることからこのような事態が発生したわけなんです。

こうした中で、最近、本質的なことについて報じられてきています。



ひとつは、こうした事故発生の原因についてです。やっぱりどうも「マスコミ」も「分割・民営」にその原因が行きつくのではないかと、ということなんです。

JR北海道は、列車や駅舎イベントなどの見えるところにお金をかけても、人目のつかない検査、保守は決定的に手抜きをする、というより「せざるを得なくなっている」のです。

JR東日本から、次長、課長級クラス10名ほどがJR北海

道に派遣され、安全運行体制づくりに本格着手すると報じられました。マイナス20度の現場に入り、鼻水を垂らしながら雪かきをやってみるがいい。水に被

わかれた列車を検査、修繕してみるがいい。それでもJR北海道は、安全を確保し民営会社としてやってゆけるといふならやってみるがいい。

私は、元国労釧路闘争団の闘争団員、横田です。「国鉄闘争全国運動」に敬意を表します。中央における闘いと国際連帯に学びつつ、地域においても粘り強く闘い続ける決意です。

再度、確認したい。87年4月1日のJR不採用から26年有余の闘いの中で、国鉄改革法の破綻・欺瞞性を暴き出したものが、9・25難波判決であったろう。国鉄闘争勝利まで団結して闘おう！ 職場に団結を！ 地域に連帯を！

解「三百代言」的理屈のもとでですが、JR復帰を認めたので、ところが二審難波判決は、彼が2005年に東京地裁で下した判決と同じく「名簿に記載されてもJR採用になったかどうかはわからない」とこれまた不可解「三百代言」的理屈でJR復帰を完全否認しました。不当労働行為が為された事実を認めながら、先進国通例の団結権擁護を明確に謳った憲法28条を解釈改憲して違憲の現実を容認してしまつたのです。最高裁がこの二審判決を破棄して、自ら解雇撤回・JR復帰の判決を下すことをわれわれが要求する所

戦後史の中で、先ずは1949〜50年の国家的レッドパージによって、ついで60年代をピークとし、それ以降も執拗に実践されてきた民間大独占体典型の労務管理が不当労働行為を武器として会社派労働組合を生成育成してきたことによって、そして80年代の国家政策「臨調行軍」

不当労働行為を認定すれば、名簿への記載↓JR採用となるはずであるが、それを否定する論理の運びは、裁判所の欺瞞と詭弁・偏見に満ちたものである。そもそも、労働組合法という

安倍政権は、われわれを殺しかかっていると言えまいか。福島県民を難民化して、国は何か対策を取らない。国鉄分割・民営化における労働者の生存と尊厳を剥奪した行為と重なる。

による官公労組攻撃、特に国鉄民営化に反対した労組員の不当解雇によって、団結権は踏みじられてきました。その結果が、ストライキゼロ社会、好況期にも賃金低下といった異例であり普通でない今日の日本資本主義の姿の現出でした。

自殺年々3万人、家族生活を維持できない雇用賃金と社会保障のもとでの少子化―人口絶対減少、ILO1号条約(1919年成立)未批准下での無制限的残業のもとでの過労死などとの異常社会を人間らしい労働と生活の社会に改革するには、左翼政党の国民的発展とそれ以上の大衆的労働組合運動の発展に懸つていると私は考えています。不当労働行為の横行を止めることは、後者―労働運動の発展に不可欠の要件です。われわれの10万筆署名運動を成功させ、高石さんらの権利回復を勝ち取り、日本の組合運動の発展に貢献いたしましょう。団結頑張りましょう！

動労千葉鉄建公団訴訟9・25高裁判決は、「国鉄分割・民営化に反対する姿勢を示していた労働組合に所属する職員を……差別して不利益に取り扱う目的、動機(不当労働行為意思)の下に、本件名簿不記載基準を策定し、これに従ってJR東日本の採用候補者名簿に記載しなかった……」とする。

今一度、思い起こそう。国鉄分割・民営化は何であったか。組合をつぶし、思想で差別し、労働者・家族の生活と尊厳を破壊し、地域を疲弊させ、国家財産を奪取り、労働者を自殺に追い込んだ、国鉄・JR・国家の犯罪行為でなかったのか。その結果が、尼崎脱線事故であり、JR北海道の安全の崩壊ともいうべき数々の出火・発煙事故でないのか。

労働者の尊厳をかけて

大野義文(元安芸労働基準監督署長)

憲法28条に基づく団結保障の基本法をないがしろにした国鉄改革法は違憲とも言うべき法律であったのだ。

今一度、思い起こそう。国鉄分割・民営化は何であったか。組合をつぶし、思想で差別し、労働者・家族の生活と尊厳を破壊し、地域を疲弊させ、国家財産を奪取り、労働者を自殺に追い込んだ、国鉄・JR・国家の犯罪行為でなかったのか。その結果が、尼崎脱線事故であり、JR北海道の安全の崩壊ともいうべき数々の出火・発煙事故でないのか。



安倍政権は、われわれを殺しかかっていると言えまいか。福島県民を難民化して、国は何か対策を取らない。国鉄分割・民営化における労働者の生存と尊厳を剥奪した行為と重なる。

組織拡大に集中して闘う

武谷新吾 (全日建運輸連帯労組関西 地区生コン支部書記次長)

先日、第49回の定期大会を迎えまして、今期も昨年に引き続き組織拡大と権利侵害のすべての職場の解決、この2本を決議して取り組んでいます。



なぜ組織拡大が必要なのか。関西生コンは結成以来、生コン業界および全労働者の年間所得を上回るような賃金、労基法を上回るような労働条件、会社が雇い入れる労働者は正社員であつても日雇いであつても関西生コンの組合員を優先するという優先雇用協定、完全週休二日



条件の維持向上のために、関生支部を始めとする先輩たちが築き上げてくれた財産を守って、さらに発展させるために、社会的な影響力を高めて、産業経済

職場に労働組合を!

中村吉政 (全国金属機械労働組合港合同委員長)



本年3月11日、1991年から22年継続されてきた(医)南労会での長期争議に決着をつけるに至りました。これまで南労会闘争に心を寄せ、支援連帯をいただいていたことにあらためて感謝申し上げます。

労働者の立場で

中村仁 (動労千葉争議団)

10万筆集めきつて労働者の力を見せましょう。ぜひよろしくお願ひします。

高裁判決は、労働者の首を切つても構わない、金を出せばいいんだという判決です。この判決は資本側からみた判決で

を民主化させるために、今期も組織拡大に集中して闘いたいと思います。みなさんともに闘いましょう。

分割・民営化に決着を

田中康宏 (国鉄千葉動力車労働組合委員長)

今日、私たちは「今こそ闘う労働組合を全国の職場に!」というひとつの目的のために集まりました。今ほど労働運動の復

私たちが労働者側から見たら、不当労働行為で解雇されたなら絶対に解雇は撤回されなければいけない。この立場にわれわれは絶対に立ちましよう。

気持ち揺るがぬ

成田昭雄 (国労闘争団)

私は27年目を迎えて、一度た

橋下を引きずり下ろす

安田匡 (大阪市交通局の労働者)



職場に闘いの旗は見え、権利意識は後退し、団結が奪われていきます。こうした現状を突破する鍵は国鉄闘争にあります。本集會に結集された全国の闘う仲間が、それぞれの職場で、労働組合を再生させ、あるいは闘う労働組合をつくって、新たな闘う労働組合の全国的なつねりを点から線、線から面へと発

橋下のあらゆるキャンペーンはねつ造された事実から始まりを点から線、線から面へと発



及ぶ新自由主義攻撃が生み出したのは格差と貧困、社会の崩壊だけでした。痛みを耐えれば豊かになる? 今や、この国の政府がやってきたことすべてがウソだったことを誰もが知っています。労働者のこれまでの意識・価値観が大きく変化し、時代が動こうとしています。

新自由主義攻撃のすべては国鉄分割・民営化から始まりました。しかし、われわれの闘いはついに真実を暴きだし、攻撃の核心を打ち破ろうとしていま

大阪市の施設で働く職員が児童に刺青を見せて脅したという記事をマスコミが大々的に報道し、橋下はそれをネタにしてすべての職員を攻撃してきました。実際には子どもを脅したという事実はなかった。私の裁判の中でも大阪市がそれを認めています。刺青調査は私を含め、6名の回答拒否者がいます。この場に参加を呼びかけていた赤田さんを含むこの6人は、今では協力し合つて橋下と闘つて一致しています。

私は現在、交通局長を提訴した、けしからん運転士というこ

ところが、JR不採用の選挙基準を国鉄幹部とJR設立委員長が共謀して決定し、その場に政府の官僚も同席していたことが明らかになったのです。あと一歩です。絶対に国鉄分割・民営化攻撃を打ち砕いて解雇撤回をかちとりたいたいと思ひます。それができれば、以降、すべての労働者を襲つた攻撃が不当なものであつたことが証明されます。新たな10万筆署名運動への協力を心から訴えます。JR北海道では安全の全面的な崩壊をもたらし、国鉄分割・民営化は失敗に終わりました。今こそ、労働運動の後退、権利喪失の原点となつた国鉄分割・民営化攻撃に決着をつけよう。今こそ闘う労働組合を全国の職場に甦らせよう。

とで、事務部門に配転させられていますが、当初、こちらの事務職のみなさんがどうしてこんなに熱心に民営化に邁進しているか不思議でしょうがありませんでした。今わかつたことは、彼らは同じ労働組合であつても、われわれ現業の者を切り捨てることで今の身分を確保しようとしてい

この卑屈な精神が今や皆の知るところになれば、もとい世間の垢にまみれたあぶくの中に戻るべきでしょう。道頓堀にある井戸の中に戻つて、メタンガスみたいなコメントを一人吐いておればよいのです。メタンガスから出てくるつぶやきがあるうがなかるうが誰も耳にする必要はない。心が安まります。それでもポイントのはずれた塚屋太一は道頓堀に隠すためにプールまでつくるという非常識、大阪の笑ひ者です。「橋下と松井財界とコンサルタンのニンジンに釣られて道頓堀にあがつたれ」というのが大阪人の常識であります。

大阪の仲間とともに元気が出る話をみなさんとできることに本当に感謝しています。